



**昔のあそびって楽しいね**  
～関谷小 ふるさとふれあい学習会～

6月28日、地域と学校が連携して3世代が交流する「ふるさとふれあい学習会」が関谷小学校で開かれました。1～6年生で構成される12グループに分かれて、メンコやコマ、あやとりなど昔の遊びや団子づくりに挑戦。普段は遊ぶ機会の少ない昔のおもちゃを、地元の高齢者の人たちに教えてもらい、児童は夢中になって遊んでいました。地域の人たちも懐かしいおもちゃに触れ、昔を思い出しながら児童との交流を楽しみました。



**短冊に願いを込めて**  
～西小 七夕集会～

西小学校で恒例となっている七夕集会が、7月7日に行われました。1～6年生で10人ほどの班をつくり、1週間ほど前から準備してきた短冊や色とりどりの折り紙の輪などを笹に飾り付け。笹の高いところは高学年の児童がリーダーシップを取って積極的に飾り付けを行い、班の中で協力し合う様子が各所で見られました。飾りつけた笹が一堂に校舎内の廊下に並べられると、児童はそれぞれの笹を見て回り、学年を越えた交流を楽しんでいました。



**身近な問題をみんなで考える**  
～日新中 日新サミット～

自分たちの身の回りの問題を子どもたちと地域の大人たちが一緒に考える日新サミットが、7月7日に開催されました。今回のテーマは「ふるさと」。日新中・豊浦小・鍋掛小の子どもたちや保護者などが自分たちの「ふるさと」をよくしていくにはどうすればよいのかを真剣に議論。PR動画の制作や地域を知るための勉強会の開催など、さまざまなアイデアが出されました。今後は半年後に開催予定のサミットに向け、内容を更に検討していくことになっています。



**英語で交流してみよう**  
～波立小 グローバルタイム～

「小規模特認校の強みを生かし、世界に通用する人材を育てたい」。コミュニケーション能力の育成を図るため、6年前から始まったアジア学院の学生との交流会が、6月27日に波立小学校で行われました。英語の名刺を交換し、「what sport do you like? (何のスポーツが好き?)」など子どもたちから学生へ質問。返答は英語にもかかわらず、大体理解できているようで頼もしい限りです。世界へ羽ばたく人材が一人でも多く生まれて欲しいものです。

**大人への第一歩を踏み出そう**  
～社会体験活動 マイ・チャレンジ～



市内の中学2年生が5日間、社会体験活動に挑戦。地域の人々の協力のもと、生徒は働くことを通じて感謝の気持ちや礼儀を学びました。また、学校を離れて活動した今回の経験は、自分自身の将来を考える有意義な時間になったことでしょう。

千本松牧場で活動した塩原小中学校の野口 翔吾さんは「世話をするとき最初は緊張で慌ててしまい、牛も怖がっていました。でもこちらが落ち着いて接すると気持ちが通じ合えたようで相手も安心した様子。動物飼育員になりたいという思いが強くなりました」と話しながら牛の頬をなでました。

西那須野中 高橋 舞葉 さん  
「言うことをなかなか聞いてもらえないのが大変」と話す高橋さん。「でも園児たちが朝登校してくると『先生おはよう』と元気いっぱい笑顔で声をかけてくれるのが嬉しい」と働く喜びを実感した様子でした。



西那須野幼稚園

**フラワーガーデン四季**



西那須野中 伴 那津実 さん  
「花の水やりは簡単なことだと思っていたけど、花の種類やその日の気温によって水の量や頻度も違うと知りました。水やりを覚えるだけでも3年かかるそう」と花を育てる大変さを話してくれました。

厚崎中 花塚 純世 さん

「座敷の接客でお客さんにラーメンを出すとき、膝をつかずに接客をしてしまって怒られました」と失敗談を一言。「常に相手の立場にたつことの大切さを教わりました。今後も気配りを意識していきたい」と続けました。



森商店



↑年長の太鼓演奏。両親の前で元気に練習の成果を披露 →音楽に合わせて親子で仲良くダンス ▶「パパ見て、花火だよ」  
↓好評だった金魚すくいならぬ「光るおもちゃ」すくい



**夏だ! 親子で暑さを吹き飛ばそう**  
～わかば保育園 夏祭り～

ジリジリとした日差しが残る7月7日の夕方、わかば保育園で恒例の夏祭りが行われました。年長・ぞう組の太鼓演奏を皮切りに、親子踊り、くじ引きや出店などを楽しむ園児の声で会場は終始にぎやか。スタンプラリーでは、仮装した園職員から4つのスタンプを集めると景品としてシャボン玉がもらえ、その場で飛ばし始める子もいました。目玉はナスライガーによるショー。園児の夢を奪うために現れた怪人を相手に、最後は勝利をつかみ取るご当地ヒーロー。祭りの最後に花火が20発打ち上げられると、園児は「わあ～」という歓声をあげていました。

→怪人の技に倒れるナスライガー。「がんばって」と必死に声援を送る園児の表情は、とても純粋で微笑ましいものです

